

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏 名 山下 修平
学 位 の 種 類 博士（工学）
学 位 記 番 号 都市博甲第2151号
学 位 授 与 年 月 日 2020年3月24日
学 位 授 与 の 根 拠 学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び
横浜国立大学学位規則第5条第1項
学 府 ・ 専 攻 名 都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学 位 論 文 題 目 ブータン王国におけるGNH(Gross National Happiness)政策システムの発展
過程および今後の方向性に関する研究

論 文 審 査 委 員 主査 横浜国立大学 教授 高見沢実
横浜国立大学 教授 張 晴原
横浜国立大学 教授 佐土原聡
横浜国立大学 教授 大原一興
横浜国立大学 准教授 野原 卓

論文及び審査結果の要旨

本研究は、GDPを指標とする「成長」に偏った国づくり、地域づくり、都市づくりの限界が指摘されるなかで注目されるGNH（国民総幸福）指標を用いたブータンの取組みを、GNH政策の歴史的背景を出発点としつつ、GNH指標の開発、政策立案のためPST（政策スクリーニングツール）、それらの展開を国のレベルで位置づけプログラミングする開発五か年計画の3つを主要な分析対象として総合的に論じたものである。これまで個別要素の研究はなされてきたが、GNHについて総合的に整理された論考はない。

論文は序章にはじまり第1～5章および終章により構成される。

序章で既往研究の整理と本研究の位置づけがなされたあと、第1章では、「GNHとは何か」についていねいに解説・整理したあと、「GNH政策を運営するしくみ」が、本研究で主要な分析対象となる要素を意識しながら整理されている。

第2章は短い章であるが、GNH理念の歴史的起源を明らかにしたものであり、本研究での貢献の1つである。

続く第3～5章が論文の主要部分となる。

第3章はPSTのシステムとしての分析で、これ自体が研究貢献の1つである。実際の政策立案過程で提案省庁の政策案に対してGNH委員会が評価に加わり、4分野22項目の審査項目について両者で審査を行う。論文では再生エネルギー開発政策をケーススタディーとして取り上げ、それぞれの平均スコアのみならず独自のルートを通して得られた個人別データのバラツキなどから、GNHの理念を各政策にどのように組み込んでいくかの過程を明確にしている。

第4章の分析対象はGNH指標である。「幸福度指標」として日本にも断片的に紹介されているGNH指標であるが、2007年から試行的に導入され2008、2010、2015年と段階的に進化・充実してきた。研究では指標の数、指標間のバランス、「幸福度」の変化等について総合的に分析されており、このことも既往研究等ではなかった本研究の貢献である。

第5章は国の政策や事業のプログラムにあたる開発五か年計画の中で、GNH政策や指標がどのように位置づけられ展開してきたかに特に注目して分析している。第3章、第4章も含めつつ、さらにGNH政策を国レベルから地方レベルへと展開していく流れがとらえられ、第3～5章が固まりとなってブータンのGNH政策の骨格がシステムとしてとらえられたことになる。

終章「GNH政策システムの総体的考察」では、前半で第3～5章の結果を踏まえてGNH政策システム自体のこれからについて可能性と課題を整理している。また、グローバルな視点で、日本も含めた類似の試みが紹介され評価されている。さらに終章の最後の節において、GNH政策システムの有効性について考察されている。この部分は予備審査の段階で考察の必要性が指摘されていたものであるが、日本においてもさまざまな形で導入が可能なこと、国連のSDGsとも競合するものではなく補完関係にあることなどが論じられており、有用な結論となっている。

以上の成果は、都市計画のみならずこれからの都市再生・地域再生の政策立案・政策評価等の展開に有用な示唆を与えるものであり、時宜を得たものである。審査においてもその的確な考察と体系的に読み取り分析された論文内容が高く評価された。

なお、iThenticate による論文剽窃チェックを行い、本研究はオリジナルになされたものであることを審査委員会において確認した。

2020 年 2 月 6 日 10 時 30 分より建築棟会議室において公聴会を開催し、申請論文の内容について口頭発表と質疑応答を行った。その後、同日 11 時 40 分より控室にて審査委員による審査会を開催した。その結果、全員一致して本申請論文が十分な内容であり、発表に関連する質問に対する回答から博士（工学）の学位を得るに相当な学力があることを判定した。また、博士課程後期修了に必要な単位は取得済みであることを確認した。

外国語の学力の確認については、本論文に関連した英文による学会発表(Basic Study on Classification of Smart City Indices and those Measuring Well-being, International Conference of APPS2018)を行っていること等からその学力が確認できた。

学位取得に必要な対外発表論文を以下に記す。

- 1) 山下修平・高見沢実、ブータンの国民総幸福(GNH)政策の理念と計画化に関する研究
－理念の歴史的起源と具現化のためのPolicy Screening Toolの効果について－
都市計画論文集 No. 51-3、pp. 741-748、2016（査読付き）
- 2) 山下修平・高見沢実、ブータンの国民総幸福度指数(GNH Indicators)の変遷に関する研究
－指標の目的および構成の発展過程について－
都市計画論文集 No. 54-2、pp. 102-113、2019（査読付き）

以上により最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。